

社会福祉法人 愛耕福祉会 理事長
(雲南市加茂町南加茂)

白根 康久氏



しらね・やすひさ

雲南市(旧大原郡大東町)出身。近畿大法学部卒業後の1985年、電機メーカーシャープに入社し、30年間営業畑を歩んだ。父が立ち上げた法人を継ぐため2015年にUターンし、21年6月から現職。趣味はスポーツ観戦と音楽鑑賞。阪神タイガースのファン歴は40年。出雲市武志町在住。60歳。

健康経営やキャリア形成支援 人材への投資で事業の質向上

雲 南市内で保育事業に
取り組む社会福祉法
人愛耕福祉会(雲南市加茂
町南加茂)の理事長に就任
して1年がたった。保育士
の働き方改革に注目が集
まる中、国内の先進的な取
り組みを参考に健康経営
やキャリア形成の支援など
を実践し、職場環境の整備
に力を注ぐ。「人材への投資
が事業の質の向上につな
がり、法人の成長を支えてい
る」と自負する。

保育業界は働き方改革
が難しいと言われる。
「昼休憩一つとっても、保
育業界では『ないのが当
り前』とされてきた。給食の
準備や援助、昼寝の見守り
のほか、連絡帳の記入、清掃
などで時間を確保しづらい
のが一因だが、リフレッシ
ュの時間がないのは保育の
質にも大きく関わる。当法
人では運営する三つの保育
園で事務作業や清掃の業
務に当たるパート職員計13
人を雇用し、保育士が勤務
時間内に子どもと接しない
『ノンコンタクトタイム』を
創出できるようにした。

有給休暇取得への環境も整
い、取得率は2020年度
63・9%から21年度は80
・3%に上がった」
健康経営や職員のキャ
リア支援にも積極的に取
り組む。

「職員の健康は大切な資
源で、生産性の向上にも直
結する。18年に衛生委員会
を立ち上げ、労働災害の防
止だけでなく職員の健康
保持増進に積極的に関わっ
てきた。重視するのは経営
側からのトップダウンでは
なく、職員と議論を重ねる
こと。意識の高まりが良い
風土の醸成につながる。キ
ャリア形成の支援は一人一
人にやりがいを持って働い
てもらうため、20年には
全職員がキャリアコンサル
タントの面談を受けた。数
年後の自分を思い描くこと
で今すべきことが明確にな
り、日々の業務に対する思
いや行動に変化があったと
いう職員もいた」

今後描くビジョンは。
「保育園は在園児のケア
だけでなく、保護者や地域
の子育て支援を踏まえた
『保育ソーシャルワーク』を
求められるようになり、開
かれた場を提供していく必
要がある。少子化による保
育の需要減が見込まれる
など外部環境が激変する
中でも、社会福祉の専門職
集団として活動領域を広
げて貢献していく」

編集室から

以前取材でお世話になったスナックをふらりと訪ねた。コロナ禍の長期化で業況は芳しくないはずだが、笑顔浮かべて迎えてくれたママさんの姿に少しほっとした。

島根県では8月末に飲食店利用の人数制限が条件付きで撤廃され、特典付きクーポンの対象拡充も決まるなど、コロナ禍での経済対策が新たなフェーズに移った。「会社の飲み会自粛」や「少人数」、「宅飲み」など消費者の行動様式がコロナ禍で大きく変わり、「元のにぎわいは戻らない」

という声もあるが、業況回復に向けた一歩となるよう願わずにはられない。

経済を担当した2年間で、夜の街への個人的な思い入れが深まった。社長がこぼす経営の悩み、営業マンの武勇伝、いちげん同士が意気投合する瞬間など、昼間の取材では立ち会えない世界が多々あった。異動で部署を移ることになったが、今後も足を運びたい。

(部田寛孝)